

徳島人

コラム

1月28日、県が再就職希望者を対象に就職フェアを開いた。県中小企業家同友会と福祉事業団体との共同開催で、参加20企業のブースには約40人が訪れた。事後のアンケートから、企業は資格や経験よりもコミュニケーション能力や意欲、協調性を重視していることが、また求職者は企業の将来性や賃金よりも休暇

兼松 文子 (県労働者福祉協議会 事務局長)

や勤務時間を重視していることが浮き彫りになった。「働きやすさ」が求められていることを再認識する機会もあった。今月13日に県労働者福祉協議会など6団体が飯泉嘉門知事との懇談会を開いたときのこと。4月の女性活躍推進法施行を間近に控え、40人の女性が「働きやすさ」をテーマにグループ討論をしたところ、育児や介護と両立できる職場環境を求める声が多数上がった。夫の職場環境が妻の働きやすさや女性活躍の鍵を握るといふ意見もあった。

「働きやすさ」の実現

これに対し、知事からは理解のある企業を「はぐくみ支援企業」として顕彰する制度を充実させるとの方針が示された。

県の委託を受け11年間、働きやすい職場環境整備事業を推進し「はぐくみ支援企業」の経営者から共通して聞く言葉がある。「特別なことはしていない」。特別なこととはしていない。両立支援や女性の活躍を法の力で推し進めなければならぬ現状では、そう言えることがいまだ特別なことなのかもしれない。

3月10日には事業の一環として「はぐくみ支援実践

セミナー」を開く。顕彰企業の経営者が、どのような思いから柔軟な働き方ができる制度や企業風土を築いてきたのかを語る。

就職フェアを通じ、採用された子育て中の女性は勤務時間や勤務地まで希望を聞き入れ配慮してくれた経営者に、「採用してよかったと思っていただけよう頑張る」と感謝を込めた。柔軟な働き方ができる職場環境は経営者から社員への贈り物であると同時に、社員が経営者の思いに応えるという信頼関係を築く懸け橋となるに違いない。